

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
201	経済学演習（荒木一法）	通年	3年以上：4単位	荒木 一法 政政・経演・国演

**副 題**  
Subtitle 企業と家計の行動分析（応用ミクロ経済学）

**授業概要**  
Course Description

（目的）本演習は、企業と家計の行動分析を題材として、参加者の分析力とコミュニケーション能力を向上させることを主たる目的とします。

（方法）伝統的なミクロ経済学に加えて、ゲーム理論や契約理論を具体的な分析事例を交えて学ぶことで、参加者の分析力の質を高め、幅を広げる事を試みます。また、プレゼンテーションと討論の機会をできるだけ多く確保するとともに、適宜短いレポートの提出を求め、参加者の「話す力」「書く力」の向上に努めます。

（題材の説明）企業の投資・資金調達行動、資金仲介者（銀行・証券会社等）の行動、さらには家計の消費・貯蓄・資産選択行動を分析対象とします。これらのトピックを理論的に扱った文献ならびに関連ニュースを報じる新聞・雑誌の記事を題材とします。まず、邦文文献ならびに記事を題材にゼミを進め、後に英文文献ならびに記事を導入する予定です。

**授業の到達目標**  
Objectives

- ・状況に応じた効果的プレゼンテーションをおこなうことができる。
- ・ディスカッションにおいて、自らの考えを正確に伝えることができる。
- ・ミクロ経済理論の応用力を強化し、与えられた事例に即応的分析を加えることができる。

**授業計画**  
Course Schedule

第1回：プレゼンテーションの技術（講義）  
 第2回 - 第14回：履修者による発表と議論  
 第15回：夏合宿および秋学期ゼミの課題設定  
 第16回 - 第29回：履修者による発表と議論  
 第30回：3年ゼミ活動のまとめと進路指導

**教科書**  
Textbook(s) 教員が指定する教科書候補の中から、参加者が相談して決定します。

**参考文献**  
Reference Book(s)

評価方法 Evaluation	割合(%) Percent(%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	50 %	夏合宿での課題提出、秋学期の研究内容をまとめたレポートは必須。
平常点評価 Class Participation	50 %	担当箇所の理解力およびプレゼンテーション能力の水準およびその向上の度合いを評価。
その他 Other	%	

**備 考**  
Note 応募時に経済学入門A、ミクロ経済学、解析学入門（もしくは解析学）の3科目について単位を取得済みであること、および別途詳細を掲示する2回のゼミ説明会のいずれか1回に出席することを応募の前提条件とします。本演習の目標に賛同し、チャレンジする意志を持った元気ある諸君の応募を大歓迎します。

**関連URL**  
URLs for References

# 経済学科

2012

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
202	経済学演習 (有村俊秀)	通年	3年以上：4単位	有村 俊秀 政政・経演・国演

副 題  
Subtitle

環境経済学

授業概要  
Course Description

地球温暖化問題、大気汚染問題、廃棄物問題などの環境問題を、ミクロ経済学を用いて分析する環境経済学を学びます。同時に、実証分析のための統計分析・計量分析の手法も学びます。そのため、コンピュータールームでの統計分析の実習も予定しています。前半は、教科書の輪読を行いながら、研究活動の方法について理解を深めます。そして、次年度のゼミ論執筆のための研究構想の発表、および研究の準備を行います。欧州や米国の環境政策についても学びます。

授業の  
到達目標  
Objectives

本演習では、2年間をかけて、環境経済学の論文を書くことを目標としています。そのため、1年目は、環境経済学の考え方を理解することを目指します。論文執筆では、定量分析をすることを目指すため、分析に必要な統計学、計量経済学の手法を修得することも目標です。必要に応じて、英文文献を読めるようになる事も大きな目標です。

授業計画  
Course Schedule

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：環境規制の政策評価の現状と経済学の基礎理論
- 第3回：統計学演習(1)：環境・経済データのグラフ作成
- 第4回：統計学演習(2)：環境・経済データの単回帰分析
- 第5回：統計学演習(3)：環境・経済データの重回帰分析
- 第6回：統計学演習(4)：統計検定
- 第7回：輪読(1) 環境規制の経済分析の事例：大気汚染政策(1)
- 第8回：輪読(2) 環境規制の経済分析の事例：大気汚染政策(2)
- 第9回：輪読(3) 環境規制の経済分析の事例：大気汚染政策(3)
- 第10回：輪読(4) 環境規制の経済分析の事例：温暖化政策(1)
- 第11回：一般化費用アプローチ(1)
- 第12回：一般化費用アプローチ(2)
- 第13回：輪読(5) 環境規制の経済分析の事例：温暖化政策(2)
- 第14回：輪読(6) 環境規制の経済分析の事例：温暖化政策(3)
- 第15回：輪読(7) 環境規制の経済分析の事例：廃棄物政策
- 第16回：研究構想発表(1)
- 第17回：研究構想発表(2)
- 第18回：研究構想発表(3)
- 第19回：研究構想発表(4)
- 第20回：研究構想発表(5)
- 第21回：計量経済学演習(1)：時系列データ分析
- 第22回：計量経済学演習(2)：クロスセクションデータ分析
- 第23回：計量経済学演習(3)：離散選択モデル分析(1)
- 第24回：計量経済学演習(4)：離散選択モデル分析(2)
- 第25回：研究発表(1)
- 第26回：研究発表(2)
- 第27回：研究発表(3)
- 第28回：研究発表(4)
- 第29回：研究発表(5)
- 第30回：まとめ

教科書  
Textbook(s)

「環境規制の政策評価：環境経済学の定量的アプローチ」有村俊秀・岩田和之著(上智大学出版社・ぎょうせい)

参考文献  
Reference Book(s)

「入門 環境経済学」 日引聡・有村俊秀著(中央公論新社)

評価方法 Evaluation	割合(%) Percent(%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	50 %	
平常点評価 Class Participation	50 %	
その他 Other	%	

備 考 Note	統計学、計量経済学の知識を持っている方が望ましいですが、理論分析、環境政策の制度に関心がある人も歓迎します。
-------------	--

関連URL URLs for References	<a href="http://pweb.sophia.ac.jp/arimura/index-j.htm">http://pweb.sophia.ac.jp/arimura/index-j.htm</a>
------------------------------	---

# 経済学科

2012

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
203	経済学演習 (石井安憲)	通年	3年以上：4単位	石井 安憲 政政・経演・国演

**副題**  
Subtitle 国際貿易と投資の経済学演習

**授業概要**  
Course Description ミクロ経済学、国際経済学・貿易論に関する書物を選択し、それらを輪読・討論形式で呼んでいく予定。ただし、現実の経済問題を理解するためには、幅広い経済的知識を必要とするので、国際環境経済学・国際マクロ経済学等の書物も並行して読むことがある。

**授業の到達目標**  
Objectives 国際開放経済、特に国際開放ミクロ経済分野に関する経済諸問題を解明するために必要なミクロ経済学を中心に、可能であれば、さらに広くマクロ経済学の基礎を再検討し、4年次における卒論作成において使用する経済理論の完全習得を到達目標とする。

**授業計画**  
Course Schedule  
第1回 - 第2回：ミクロ経済学について  
第3回 - 第5回：消費者行動について  
第6回 - 第9回：企業行動について  
第10回 - 第12回：市場分析について  
第13回 - 第16回：市場の失敗について  
第17回 - 第18回：不完全競争について  
第19回 - 第21回：環境問題について  
第22回 - 第24回：不確実性の経済学について  
第25回 - 第29回：卒論課題について  
第30回：理解度の確認

**教科書**  
Textbook(s)  
3年生 前半：石井安憲編著『現代ミクロ経済学』、東洋経済新報社  
後半：トピックス毎にコピー資料配付。  
4年生 卒論課題に応じて、グループ毎に適当な書物・資料を入手。

**参考文献**  
Reference Book(s)

評価方法 Evaluation	割合(%) Percent(%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	30 %	ゼミ報告の適切性と内容を総合的に評価する。
平常点評価 Class Participation	30 %	ゼミ討論への参加度と内容を総合評価する。
その他 Other	40 %	ゼミへの出席を極めて重視する。

**備考**  
Note 本ゼミでは、ディスカッションを主とするので、本ゼミへの参加を通じて、学問的知識の理解はもちろんのこと、物事に対し自発的かつ協力的に取り組む積極性と協調性を養って欲しい。ただし、「時間厳守は、君子の礼儀」を座右の銘にしているので、無断欠席・遅刻を常とする者は、本ゼミへの参加を機にその態度を改めることが望まれる。なお、本ゼミ希望者は、石井担当の国際貿易理論を受講することが望ましい。

**関連URL**  
URLs for References

# 経済学科

2012

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
204	経済学演習 (稲葉敏夫)	通年	3年以上：4単位	稲葉 敏夫 政政・経演・国演

副題  
Subtitle

経済分析における統計的方法の研究

授業概要  
Course Description

情報技術革命の進展に伴い、大量のデータが利用できるようになり、データ処理に対するニーズはますます高まってきている。その様なニーズは、従来の統計学の枠組みを拡大させつつある。今やデータを簡単にダウンロードし、準備された統計計算用のソフトを使えば、意味が有ろうと無かろうとたちどころに計算してくれる。しかし、データ分析を意味あるものにするためには、それぞれの統計的方法の背景や前提を知ってなければならない。回帰分析などの基本的方法を習得するとともに、時系列分析やデータマイニングなどの最近の動向も含めた統計的方法も取り上げる。

授業の  
到達目標  
Objectives

統計学の基礎的概念や統計的推測（推定、検定）の習得を確実なものにする。回帰分析の手法を習得するとともに、時系列分析やデータマイニングなどの最近の動向の基礎についても学ぶ。

授業計画  
Course Schedule

第1回 - 第5回：時系列データ：古典的時系列分析  
第6回 - 第10回：景気変動：景気指標の作成方法と実際  
第11回 - 第15回：回帰分析  
第16回：春学期理解度の確認  
第17回 - 第21回：データマイニング  
第22回 - 第26回：指数：物価指数と数量指数  
第27回 - 第29回：回帰分析：再考  
第30回：秋学期理解度の確認

教科書  
Textbook(s)

開始時に指示。

参考文献  
Reference Book(s)

評価方法  
Evaluation

	割合(%) Percent(%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	60 %	
平常点評価 Class Participation	40 %	
その他 Other	%	

備考  
Note

関連科目：必ずしも前提とはしないが、統計学の基礎およびパソコンの基本的操作を習得していることが望ましい。

関連URL  
URLs for References

# 経済学科

2012

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
205	経済学演習 (上田貴子)	通年	3年以上：4単位	上田 貴子 政政・経演・国演

副題  
Subtitle

経済データ解析：－日本の所得分配－

授業概要  
Course Description

本演習は、データ及びデータ分析に基づいて自ら調べ考える姿勢を身につけることを目標とする。演習αではデータ分析を基にした経済学での研究をとりあげる。本年のテーマは、「日本の所得分配」である。所得格差はデータやデータ分析に基づかないままに社会で議論されている向きがあるため、データに基づく経済学文献を講読する。演習βでは、自らテーマを選択し、関連文献やデータの調査を行い、統計ソフトウェアを使用してデータ解析を行って論文にまとめることとする。

授業の  
到達目標  
Objectives

学生諸君の多くは大学卒業後、社会へ巣立つ。周囲に氾濫する情報や一般常識などを鵜呑みにするのではなく、自分にとっての「正解」を自分でみつけていく能力は、職業生活においても個人生活においても役にたつと本教員は考えている。本演習では、自ら疑問を持ち、調査を行い、数字やデータなどの客観的根拠をもって自らの考えをまとめ、さらにその考えを他者に向かってわかりやすくアピールする能力の基本を身につけることを目標とする。

授業計画  
Course Schedule

指定文献の講読を行う。1－2回で1章を読み進める。

- (1) 事前に指定した報告者1－2名が文献の内容を報告する。
- (2) 報告者は要約の配布、板書等を使い、わかりやすく報告を行うことが求められる。
- (3) その他の演習参加者も事前に文献を読んでくることを義務とする。
- (4) 毎回、文献の内容について意見を求め、討論を行う。
- (5) 演習は出席を原則とする。無断欠席は本演習の放棄とみなす。

[春学期]

第1回： 春学期の演習の進め方について・報告の割り当て

第2－13回： 大竹文雄（著）「日本の不平等：格差社会の幻想と未来」を購読する。

第14－15回： まとめと討論、秋学期の文献の選択について

[秋学期]

第16回： 秋学期の演習の進め方について・報告の割り当て

第17－28回： 指定文献を購読する。

（この間、ゼミ論のテーマ選択、中間報告を行うが、回数は演習参加者人数により調整を行う。）

第29－30回： ゼミ論の発表、提出

教科書  
Textbook(s)

「日本の不平等：格差社会の幻想と未来」、大竹文雄（著）、2005年、日本経済新聞社。  
（春学期の予定、変更の可能性がある。秋学期は未定。）

参考文献  
Reference Book(s)

「日本の所得格差と社会階層」、樋口美雄＋財務省財務総合政策研究所（編著）、2003年、日本評論社  
「日本の所得分配」、小塩隆士他（編）、2006年、東京大学出版会  
「日本の所得と富の分配」、石川経夫（編）、1994年、東京大学出版会

評価方法 Evaluation	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	60 %	統計分析を必須とする。ゼミ論の書き方と評価ポイントとは別途配布する。
平常点評価 Class Participation	40 %	出席、文献購読の報告、討論への参加、ゼミ論の報告含む。
その他 Other	%	

備 考 Note	<p>ゼミ論の作成のためには、統計学の知識と統計ソフトウェアを使用した統計分析手法が必須であるが、演習ではこれらの授業は行わないので、関連の授業を履修する必要がある。「統計学入門」は既に履修済みであること。また、本演習α終了時まで「統計学」「計量分析」を履修すること。なお、「計量経済学」「現代経済政策分析」の履修も強く推奨する。</p>
-------------	---

関連URL URLs for References
------------------------------

# 経済学科

2012

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
206	経済学演習 (牛丸聡)	通年	3年以上：4単位	牛丸 聡 政政・経演・国演

副 題  
Subtitle

わが国財政のあり方の検討

授業概要  
Course Description

少子・高齢化や女性の社会進出などの社会構造の変化や低成長をはじめとした経済構造の変化に対応させて、また、国際社会においてわが国が信頼される役割を果たすためにも、私たちはわが国財政のあり方を改めて検討しなければならない。本演習では、そうした事柄に関心をもつ学生が集まり、わが国の財政に関するテーマを自由に選択し、それについて研究を行い、今後のわが国のあり方について熱く議論する。

授業の  
到達目標  
Objectives

毎回のゼミにおける班活動を行いながら知識を増やし、人格を形成し、12月のイベントを成功させること。個人としては、最終的に良い卒業論文を完成させること。

授業計画  
Course Schedule

- 第1回：(春学期)班活動(1) 同時に個別指導
- 第2回：(春学期)班活動(2) 同時に個別指導
- 第3回：(春学期)班活動(3) 同時に個別指導
- 第4回：(春学期)班活動(4) 同時に個別指導
- 第5回：(春学期)班活動(5) 同時に個別指導
- 第6回：(春学期)班活動(6) 同時に個別指導
- 第7回：(春学期)班活動(7) 同時に個別指導
- 第8回：(春学期)班活動(8) 同時に個別指導
- 第9回：(春学期)班活動(9) 同時に個別指導
- 第10回：(春学期)班活動(10) 同時に個別指導
- 第11回：(春学期)班活動(11) 同時に個別指導
- 第12回：各班における報告会・質疑応答(1)
- 第13回：各班における報告会・質疑応答(2)
- 第14回：春学期理解度の確認
- 第15回：反省と秋学期に向けての打ち合わせ
- 第16回：(秋学期)イベントに向けての準備と学習(1) 同時に個別指導
- 第17回：(秋学期)イベントに向けての準備と学習(2) 同時に個別指導
- 第18回：(秋学期)イベントに向けての準備と学習(3) 同時に個別指導
- 第19回：(秋学期)イベントに向けての準備と学習(4) 同時に個別指導
- 第20回：(秋学期)イベントに向けての準備と学習(5) 同時に個別指導
- 第21回：(秋学期)イベントに向けての準備と学習(6) 同時に個別指導
- 第22回：(秋学期)イベントに向けての準備と学習(7) 同時に個別指導
- 第23回：(秋学期)イベントに向けての準備と学習(8) 同時に個別指導
- 第24回：(秋学期)イベントに向けての準備と学習(9) 同時に個別指導
- 第25回：(秋学期)イベントに向けての準備と学習(10) 同時に個別指導
- 第26回：(秋学期)イベントに向けての準備と学習(11) 同時に個別指導
- 第27回：公開イベント開催
- 第28回：公開イベントに関する反省
- 第29回 - 第30回：1年におけるゼミ学習の総括

教科書  
Textbook(s)

参考文献  
Reference Book(s)

評価方法 Evaluation	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	50 %	3年生の場合、最後のレポート。4年生の場合、卒業論文。
平常点評価 Class Participation	25 %	毎回のゼミの出席状況とその参加態度。
その他 Other	25 %	12月に行われるイベントとそれに向けての態度。

備 考 Note	学生に対する要望：
	<p>(1) ゼミを重視し、ゼミ活動に必ず出席してほしい。</p> <p>(2) なごやかさの中にも厳しさを持ち、人間としてお互いを尊重し、同時に協調の中でも学ぶという姿勢を大切にするような学生の参加を期待している。</p> <p>(3) 勉強を一所懸命にやることはもちろんだが、それとともに、視野を広くもち、趣味も豊かで、人間や社会のあり方について誠実に語る学生であってほしい。</p> <p>(4) 財政学の講義を受講していること。まだ受講していない人はこれから必ず受講するように。</p>

関連URL URLs for References

# 経済学科

2012

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
207	経済学演習 (荻沼隆)	通年	3年以上：4単位	荻沼 隆 政政・経演・国演

副 題  
Subtitle

不完全情報とゲームの理論を中心としたマイクロ経済学

授業概要  
Course Description

この演習では、主に、不完全情報の経済学とゲームの理論を用いた経済分析を学ぶ。この分野は、マイクロ経済学の中級レベル以上のテキストにはほとんど含まれているが、マイクロ経済学の講義の中では、通常部分的にしかカバーできていない。この講義では、まず不完全情報の経済学とゲームの理論の標準的な内容を学習する。その上で、限定合理性を考慮した分析のように発展的な研究を行うか、特定の分野に関するやや現実的な応用研究を行うことを目的とする。

授業の  
到達目標  
Objectives

マイクロ経済学・ゲーム理論の基本的内容を理解し、それらを現実の経済問題の分析に用いることができるように学習する。

授業計画  
Course Schedule

(α) 第1回～第15回：マイクロ経済学もしくはゲーム理論のテキストを輪読し、その内容について議論する。

(α) 第16回～第30回：ゲーム理論もしくは行動経済学についてのテキストを輪読し、その内容について議論する。

(β) 第1回～第5回：今迄学んだ内容に関連する領域のテキストを読み、それについて議論する。

(β) 第6回～第30回：各自のゼミ論文のテーマについて、それぞれの段階での中間発表を行う。

教科書  
Textbook(s)

未定。

参考文献  
Reference Book(s)

未定。

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	70 %	内容の正確さおよび問題設定・分析力を考慮する。
平常点評価 Class Participation	30 %	出席および授業への参加度を総合的に考慮する。
その他 Other	%	

備 考  
Note

学生に対する要望：マイクロ経済学とゲーム理論に関係する演習なので、演習参加者は、事前にマイクロ経済学とゲーム理論の基礎知識があることが望まれる。それがあまりない場合は、演習での最初のテキストブックの学習の時点で、キャッチアップするやる気のあることが前提条件になる。

関連URL  
URLs for References

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
208	経済学演習 (小倉義明)	通年	3年以上：4単位	小倉 義明 政政・経演・国演

**副題**  
Subtitle 金融制度、規制、取引慣行の理論と実態

**授業概要**  
Course Description 2007年半ばから現在に至る金融危機の原因のひとつが、金融技術革新に規制が充分に対応できていなかったことにあるとの反省から、欧米を中心に金融再規制の議論が盛んに行われてきた。規制内容の是非については依然として議論の余地が残るものの、そのような議論の一応の帰結の代表例が2010年に米国で制定されたDodd-Frank法である。日本もこうした新規制の潮流の外にあるわけではない。この最近の劇的な変化を題材として、金融制度、規制、あるいは取引慣行の背景にある金融理論の基本ロジックを学ぶと同時に、自らロジックを組み立て、文章あるいはプレゼンテーションとしてそれを表現する訓練をする。

**授業の到達目標**  
Objectives この演習では、以下の4点を目標とする。  
1. 金融制度、規制、取引慣行の背景にある金融理論のロジックを体系的に理解すること。  
2. 最近の金融制度に関する議論とその意味を知ること。  
3. 自分の前提とする仮定を意識しつつ、自らロジックを組み立て、それを表現できるようになること。  
4. 英語による情報収集に慣れること。

**授業計画**  
Course Schedule 第1回：オリエンテーション・打ち合わせ  
第2 - 7回：テキスト輪読・検討 Part 2: Systemic Risk (毎回2名程度が担当箇所を報告)  
第8 - 11回：テキスト輪読・検討 Part 3: Shadow Banking  
第12 - 14回：テキスト輪読・検討 Part 4: Credit Markets  
第15回：ゼミ論文構想発表会  
第16 - 26回：指定する学術論文の輪読・検討  
第27 - 30回：ゼミ論文報告・検討会

**教科書**  
Textbook(s) 前期： Acharya, V., T. Cooley, M. Richardson, and I. Walter, *Regulating Wall Street: The Dodd-Frank Act and the New Architecture of Global Finance*, 2011, John Wiley & Sons.  
後期： 金融制度・規制・取引慣行に関連する重要な学術論文を指定する。

**参考文献**  
Reference Book(s) 授業中に関連する論文等を紹介する。

評価方法 Evaluation	割合(%) Percent(%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	30 %	3年生後期終了時にゼミ論文を提出すること。
平常点評価 Class Participation	70 %	出席。報告。議論への活発な参加。
その他 Other	%	

**備考**  
Note ミクロ経済学 ・ 、マクロ経済学 ・ 、金融論を履修済みであること、あるいは並行して履修していることが望ましい。  
計量経済学 ・ を並行して履修すると論文テーマの幅が広がるのでなお良い。

私事ですが、2012年4月着任予定です。以下のサイトに自己紹介があります。

関連URL  
URLs for References

[http://www.ritsumei.ac.jp/~yogura/index\\_ogura.html](http://www.ritsumei.ac.jp/~yogura/index_ogura.html)

# 経済学科

2012

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
209	経済学演習 (笠松学)	通年	3年以上：4単位	笠松 学 政政・経演・国演

副 題  
Subtitle

経済成長と所得分配

授業概要  
Course Description

一国内で毎年新たに生産される生産物（GDP）は、長い期間で見ると増加する場合が多い。これを経済成長という。他方このGDPは所得として主体に分配される。また人々は、遺贈・相続・贈与といったかたちで、富をやり取りする。このような所得や富の分配と経済成長との関係について調べる。

本演習では経済成長と分配に関する様々な問題、たとえば、GDPは賃金と利潤とにどのような仕組みで分配されるのか、分配のされ方で経済成長率が変わってくるのか、世界の中の貧しい国々は豊かな国々に追いつくことができるのか、あるいは、少子・長寿化は分配にどのような影響を及ぼすのか、といった問題を、文献を読みながら、あるいは議論をしながら考え、経済学の一層着実な理解の助けとする。

最後に、そうした中から各自でテーマを選び、一つの論文として仕上げる。

授業の  
到達目標  
Objectives

1. 自分以外の人達の報告に質問・コメントしたり、自分の観点に基て議論できるようになる。
2. 自分の関心に従ってテーマを決め必要な準備の下で論文を完成させる。

授業計画  
Course Schedule

- 第1回 - 第5回：成長論の検討・討論  
 第6回 - 第10回：分配理論の検討・討論  
 第11回 - 第15回：成長・分配理論の応用  
 第16回 - 第22回：各時のテーマに基く発表・討論  
 第23回 - 第29回：卒業論文の中間報告・討論  
 第30回：理解度の確認

教科書  
Textbook(s)

春学期は、基礎的な知識を身に付けるために充当する。どのようなテキストを使用するかは参加者と相談して決める予定。

参考文献  
Reference Book(s)

フォーリー&マイクル（佐藤・笠松監訳）、『成長と分配』（2002年、日本経済評論社）を参照すると成長・分配理論の内容の一部を知ることができる。

評価方法  
Evaluation

	割合(%) Percent(%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	%	
平常点評価 Class Participation	100 %	参加・報告をし、質疑に参加し、エッセイを書き論文を完成させる。
その他 Other	%	

備 考  
Note

演習は、講義では十分にできない小人数の参加者間での質疑応答や議論を通じて、自分の経済学（に止まらない、その他の分野の）理解を確認し、深めるために絶好の機会となる。また、これまでの経済学の勉強内容に不安がある場合でも、それを解決できる絶好の場にもなる。積極的に活用して欲しい。

関連URL  
URLs for References

# 経済学科

2012

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
210	経済学演習 (金子昭彦)	通年	3年以上：4単位	金子 昭彦 政政・経演・国演

**副題**  
Subtitle 国際金融

**授業概要**  
Course Description まず、国際金融理論への動学的アプローチの基礎を学ぶ。その後、参加者各自の興味を踏まえた上で、動学的アプローチの応用もしくは以下の参考文献にあるような別トピックに移る。

**授業の到達目標**  
Objectives 国際金融への動学的アプローチを理解する。論文レベルの英文を読めるようになる。

**授業計画**  
Course Schedule 第1回 - 第15回：異時点間取引と経常収支  
第16回 - 第27回：各自の興味を踏まえたトピックを取り上げて文献講読  
第28回 - 第30回：個人研究のテーマ決定

**教科書**  
Textbook(s) Foundations of International Economics, Maurice Obstfeld and Kenneth Rogoff, The MIT Press

**参考文献**  
Reference Book(s) Globalization and the International Financial System, Peter Isard, Cambridge  
Financial Crises, Liquidity, and the International Monetary System, Jean Tirole, Princeton University Press

評価方法 Evaluation	割合(%) Percent(%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	30 %	学んだ知識を使って現実の経済を説明できているか。
平常点評価 Class Participation	70 %	出席状況、予習。
その他 Other	%	

**備考**  
Note ミクロ経済学、マクロ経済学の内容を理解していること。英語文献の読解能力の高さ、自習時間に時間をかけることが望まれる。

**関連URL**  
URLs for References

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
211	経済学演習 (川口浩)	通年	3年以上：4単位	川口 浩 政政・経演・国演

**副 題**  
Subtitle  
日本経済の歴史的展開とその思想

**授業概要**  
Course Description  
 経済という行為は、時代・地域を問うことのない人間の普遍的な営為の一つである。しかし、経済の実態は、それが有限定された時代・地域における特定の人々の行為の結果である故に、一様なものではあり得ない。日本列島と呼ばれる地域に展開した経済も、地理的・時代的条件とそこに生きた人々の特質とが作り上げた一つの人間活動の結果である。  
 本演習は、日本における近世 - 近現代の経済の実態、及びそれを担った人々の経済思想に接近することを課題とする。  
 ゼミ生の選考に際してはあらかじめレポートを提出してもらい、そのうえで面接を行う。選考の第1基準は、積極的な学習姿勢である。各週の授業は勿論、合宿その他の活動への積極的参加も必須である。また、本演習の参加者には、すべての経済史関係科目の履修を義務づける。

**授業の到達目標**  
Objectives  
日本の経済史および経済思想史の特性を専門的に理解すること。

**授業計画**  
Course Schedule  
 第1回：ゼミの運営について説明  
 第2回 - 第29回：文献輪読と討論  
 第30回：理解度の確認

**教科書**  
Textbook(s)

**参考文献**  
Reference Book(s)  
 太田愛之・川口 浩・藤井信幸『日本経済の二千年』（勁草書房、2006年）  
 川口 浩編著『日本の経済思想世界』（日本経済評論社、2004年）

評価方法 Evaluation	割合(%) Percent(%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	20 %	専門的知識の習得度。
平常点評価 Class Participation	80 %	積極的な授業参加。
その他 Other	%	

**備 考**  
Note  
 正当な理由のない欠席等の怠業は一切認めない。  
 以後の出席無用。

**関連URL**  
URLs for References  
<http://www.waseda.jp/sem-jp-kei-sisou/index.html>

# 経済学科

2012

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
212	経済学演習 (古賀勝次郎)	通年	3年以上：4単位	古賀 勝次郎 政政・経演・国演

**副 題**  
Subtitle 自由主義の政治経済学研究

**授業概要**  
Course Description 近代社会はこれまで、大まかに言って、自由主義と社会主義との対立を軸として展開してきた。しかし近年の社会主義に対する知的信頼の低下で、最近では自由主義陣営内部の対立となっており、英米型自由主義、ドイツ型(オールド)自由主義、修正自由主義(社会民主主義もこれに入る)などが相争っているのが現状である。この争いの中から、どのような新しい二十一世紀に相応しい自由主義が生まれてくるのか興味深い。まずは自由主義の歴史を正確に理解することが重要で、J・ロック、D・ヒューム、A・スミス、J・S・ミルから現代のJ・ロールズやF・ハイエクに至るまでの自由主義の政治経済学を学ぶことにする。

**授業の到達目標**  
Objectives 古典を自力で読破できる力を養う。

**授業計画**  
Course Schedule 第1回 - 第6回：『経済学：名誉と現代』（日本経済新聞社）講読  
第7回 - 第10回：『いまこそハイエクに学べ』（仲正昌樹著、春秋社）講読  
第11回 - 第15回：『ハンナ・アーレント入門』（杉浦敏子著、藤原書店）講読  
第16回 - 第30回：個人研究発表  
その他合宿で発表 9月下旬 夏合宿（2泊3日）  
12月下旬 冬合宿（2泊3日）

**教科書**  
Textbook(s)

**参考文献**  
Reference Book(s) 大河内一男『アダム・スミス』（講談社）、拙著『ヒューム体系の哲学的基礎』（行人社）、トマス『J・S・ミル』（雄松堂）、渡辺幹雄『ロールズ正義論とその周辺』（春秋社）、拙著『ハイエクと新自由主義』（行人社）、八木他編『経済思想史』（名大出版会）。

評価方法 Evaluation	割合(%) Percent(%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	30 %	
平常点評価 Class Participation	70 %	
その他 Other	%	

**備 考**  
Note

**関連URL**  
URLs for References

# 経済学科

2012

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
213	経済学演習 (近藤康之)	通年	3年以上：4単位	近藤 康之 政政・経演・国演

副題  
Subtitle

応用計量経済学

授業概要  
Course Description

複雑な経済現象のメカニズムをシステムとして把握し、データに基づいて具体的に分析するのが計量経済学の役割です。この演習では、分析に用いる統計的手法についての研究（計量経済学理論）よりも、実際にデータを用いた分析（応用計量経済分析）を重点テーマとします。

分析を行うためには分析方法についての理解が必要です。様々な分析方法の中でも、産業連関分析と回帰分析を学びます。産業連関分析は、多くの産業のあいだの投入・産出を通じた相互依存関係を考慮した波及効果の分析に適した方法です。製品・サービスのサプライチェーンを遡及して分析するための方法とも言えます。例えば「万博の経済効果は〇〇円」「乗用車1台のライフサイクルで排出される二酸化炭素排出量は〇〇kg」といった評価に用いられます。回帰分析は、経済変数間の因果関係を想定した統計的分析手法です。例えば「自治体指定ごみ袋の価格が1枚40円から100円へと上昇すると、ごみ排出量は1日あたり〇〇kg減少する」といった評価に用いられます。

学んだ方法をデータに適用して分析すること、およびレポート執筆と口頭発表を通してソフトウェア使用とプレゼンテーションの技術を向上することも重視します。

授業の到達目標  
Objectives

計量経済分析（産業連関分析と回帰分析）の基礎的方法を理解し、それを実際にデータに適用して分析を行えるようになること。また、分析結果をレポートおよび口頭により発表する技術を向上すること。

授業計画  
Course Schedule

第1回－第2回：産業連関分析の概要  
第3回－第4回：回帰分析の概要  
第5回－第6回：産業連関分析の実際（1）  
第7回－第8回：産業連関分析の実際（2）  
第9回－第10回：回帰分析の実際（1）  
第11回－第12回：回帰分析の実際（2）  
第13回－第14回：発展的な産業連関分析の方法  
第15回－第16回：発展的な回帰分析の方法  
第17回－第18回：産業連関分析の実際（3）  
第19回－第20回：産業連関分析の実際（4）  
第21回－第22回：回帰分析の実際（3）  
第23回－第24回：回帰分析の実際（4）  
第25回－第26回：期末レポート執筆の準備（1）  
第27回－第28回：期末レポート執筆の準備（2）  
第29回：期末レポートの概要報告  
第30回：理解度の確認

教科書  
Textbook(s)

未定。後日決定します。

参考：平成21年度以前に使用した教科書

- ・山本 拓『計量経済学』新世社、1995年
- ・中村慎一郎『Excelで学ぶ産業連関分析』エコノミスト社、2000年

参考文献  
Reference Book(s)

学期の途中で随時指示します。

評価方法 Evaluation	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	50 %	
平常点評価 Class Participation	50 %	
その他 Other	%	

備 考 Note	以下の講義を3年次に必ず登録・履修してください：計量経済学 $\alpha$ ・ $\beta$ 、担当教員による経済学研究。
-------------	---

関連URL URLs for References	<a href="http://www.f.waseda.jp/ykondo/ja/">http://www.f.waseda.jp/ykondo/ja/</a>
------------------------------	---

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
214	経済学演習 (西郷浩)	通年	3年以上：4単位	西郷 浩 政政・経演・国演

副 題  
Subtitle

社会分析のための統計的手法

授業概要  
Course Description

社会の実証分析に使われる統計的手法の理論を学習し、それを分析用具として各自のテーマに応じて実際のデータを分析する。

社会の動きは統計データによってとらえられる。したがって、社会の動きを分析し、その将来を予測するためには、統計的手法が不可欠である。この演習の目的は、それらの分析手法の理論的な基礎を学習し、それを応用して実証分析をおこなうことにある。

1年度配当の「統計学入門」および「統計学」を前提として、テキストを選択する。したがって、これら2科目を履習済もしくは受講中であることが応募の要件である。演習参加者には、合宿および集中ゼミへの参加を義務づける。このため、それらに必ず参加できることも応募の要件である。

この他、3年進級時に残り2年間で卒業できる単位数を取得していること、普通の講義の出席状況がよいこと(8割以上)も必要である。

授業の  
到達目標  
Objectives

ソフトウェアRによる統計分析の技術取得。

授業計画  
Course Schedule

第1回：教科書の決定、年間予定の確認  
第2回 - 第29回：教科書の輪読(1) - (28)  
第30回：教科書の輪読(29)、ゼミレポート提出

教科書  
Textbook(s)

社会の分析に使われる統計分析の手法を解説した教科書を、受講者確定後に決定します。フリーソフトウェア Rによる統計分析をあつかった教科書を選ぶ予定です。

参考文献  
Reference Book(s)

評価方法  
Evaluation

	割合(%) Percent(%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	50 %	分析目的の説明の明解さ、データの適格さ、分析手法の妥当性。
平常点評価 Class Participation	50 %	ハンドアウトの質、説明の質、グループのチームワーク。
その他 Other	%	

備 考  
Note

関連URL  
URLs for References

<http://www.f.waseda.jp/saigo/>

# 経済学科

2012

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
215	経済学演習 (笹倉和幸)	通年	3年以上：4単位	笹倉 和幸 政政・経演・国演

副題  
Subtitle

上級マクロ経済学

授業概要  
Course Description

1年次の「経済学入門A・B」、2年次の「マクロ経済学」で修得した経済学の知識を前提として、マクロ経済学の理論についてさらに歴史的・数学的に研究する。そのため英語力と数学力が重要になる。さらに、マクロ経済学のゼミであるため、政経学部設置科目「マクロ経済学」を履修していることを必要条件とする（未履修の場合は3年次で必ず履修すること）。

具体的には、マクロ経済理論に関する英語を中心とした学術文献の読解、そしてそれに基づく議論がこのゼミの中心である。それらを通して、マクロ経済学のどの部分が正しくて、どの部分がそうでないか（そしてさらには、どうすればそれを克服できるか）、という（大きな）問いに対して自分自身の答えを少しでも見つけてほしい。

なお、このゼミでは（たとえばサブプライム問題や戦後日本の経済発展というような）時事的・実証的内容は直接的な研究対象ではないので十分注意してほしい。

授業の到達目標  
Objectives

マクロ経済学を歴史的・理論的に十分理解し、マクロ経済学の現状に対して自分自身の考えをもてるようになることを目標とする。

授業計画  
Course Schedule

- 第1回：ケインズ『一般理論』
- 第2回：古典派理論とセイの法則
- 第3回：有効需要の原理
- 第4回：消費理論
- 第5回：乗数理論
- 第6回：投資理論
- 第7回：流動性選好説
- 第8回：貨幣数量説
- 第9回：ハロッドの経済動学
- 第10回：ケインズ派の景気循環理論
- 第11回：ヒックスとIS-LMモデル
- 第12回：マネタリズムと合理的期待形成学派
- 第13回：新しいケインズ派経済学
- 第14回：新古典派経済成長理論
- 第15回：フリードマンとケインズ
- 第16回：IS-LMモデルの理論的整合性
- 第17回：短期モデルと長期モデルの統合に向けて
- 第18回：サミュエルソンの新古典派総合
- 第19回：IS-LMモデル、AD-ASモデル、ソロー・モデル
- 第20回：2部門モデル
- 第21回：消費財市場の均衡
- 第22回：投資財市場の均衡
- 第23回：長期の定義
- 第24回：黄金律状態の分析
- 第25回：消費関数論争
- 第26回：トービンのq
- 第27回：MM定理
- 第28回：動学的最適化理論とマクロ経済理論
- 第29回：オイラー方程式と横断性条件
- 第30回：リアル・ビジネス・サイクルの理論

教科書  
Textbook(s)

(1) ケインズ(塩野谷祐一訳)『雇用・利子および貨幣の一般理論』東洋経済新報社、1995年。

(2) ローマー(堀雅博・岩成博夫・南條隆訳)『上級マクロ経済学』日本評論社、2010

年。

(3) Mankiw, N. Gregory, 2006, "The Macroeconomist as Scientist and Engineer," *Journal of Economic Perspective*, Vol. 20, pp. 29-46.

(4) Lucas, Robert E., Jr., 1972, "Expectations and the Neutrality of Money," *Journal of Economic Theory*, Vol. 4, pp. 103-124.

(5) Dixit, Avinash K., and Joseph E. Stiglitz, 1977, "Monopolistic Competition and Optimum Product Diversity," *American Economic Review*, Vol. 67, pp. 297-308.

(6) Yun, Tack, 1996, "Nominal Price Rigidity, Money Supply Endogeneity, and Business Cycles," *Journal of Monetary Economics*, Vol. 37, pp. 345-370.

[上記輪読予定論文(3)-(6)は変更の可能性がある。]

参考文献  
Reference Book(s)

- (1) 吉川洋『現代マクロ経済学』創文社、2000年。
- (2) スノードン=ヴェイン(岡地勝二訳)『マクロ経済学はどこまで進んだか』東洋経済新報社、2001年。
- (3) A. C. チャン(小田正雄他訳)『動学的最適化の基礎』シーエーピー出版、2006年。
- (4) パロー=サライ=マーティン(大住圭介訳)『内生的経済成長論(第2版)』九州大学出版会、2006年。
- (5) Mankiw, N. Gregory, 1990, "A Quick Refresher Course in Macroeconomics," *Journal of Economic Literature*, Vol. 28, pp. 1645-1660.
- (6) Koopmans, Tjalling C., 1965, "On the Concept of Optimal Economic Growth," in *The Econometric Approach to Development Planning*, Amsterdam: North-Holland, pp. 225-287.

評価方法  
Evaluation

	割合(%) Percent(%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	40 %	3年次はタームペーパー、4年次はゼミ論文の質で評価する。
平常点評価 Class Participation	60 %	全出席が大前提である。そのうえで授業中の発言等を考慮する。
その他 Other	%	

備考  
Note

関連URL  
URLs for References

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
216	経済学演習 (清水英彦)	通年	3年以上：4単位	清水 英彦 政政・経演・国演

**副題**  
Subtitle 社会保障の理論的・実証的研究

**授業概要**  
Course Description わが国の社会保障制度は1980 - 90年代に大きな改革が行われた。その主な要因は財政危機と人口の少子高齢化であった。2000年代に入り、人口の少子高齢化はさらに進行し、80 - 90年代の大改革にもかかわらず、わが国の社会保障制度の財政的規模は今後一層拡大するものと予想される。このため、国民経済に及ぼす社会保障制度の経済的影響力もますます増大しようとしている。  
そこで本研究では、このような社会保障の国民経済に対する経済的影響、とくに所得再分配、経済安定、経済成長等に及ぼす影響を理論および実証の両面から検討していくことにする。

**授業の到達目標**  
Objectives 3年次：社会保障の基礎的知識の習得と卒業論文のテーマ決定と発表。  
4年次：卒業論文の完成と提出。

**授業計画**  
Course Schedule 第1回：イントロダクション  
第2回 - 第10回：テキスト輪読・発表  
第11回：ディベート（ゼミ合宿）  
第12回 - 第13回：卒論テーマ発表・指導（ゼミ合宿）  
第14回 - 第21回：4年卒論発表・指導（3・4年合同ゼミ）  
第22回 - 第29回：3年卒論発表・指導  
第30回：まとめと今後に向けての指導

**教科書**  
Textbook(s) 最初のゼミにおいて指示する。

**参考文献**  
Reference Book(s) 適宜指示する。

評価方法 Evaluation	割合(%) Percent(%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	50 %	レポート（論文）の完成度。
平常点評価 Class Participation	50 %	発表内容・発言の内容と頻度。ゼミ活動への参加度。
その他 Other	%	

**備考**  
Note 3年次春学期に、「社会保障論」の講義を必ず受講すること。

**関連URL**  
URLs for References

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
217	経済学演習 (白木三秀)	通年	3年以上：4単位	白木 三秀 政政・経演・国演

**副題**  
Subtitle 労働に関する国際比較研究

**授業概要**  
Course Description 本演習では「21世紀の労働・仕事」に関する国際比較研究を行う。仕事・労働は人間社会が続く限り、未来永劫に続く研究課題である。  
経済社会では現在、短期的のみならず中長期的にも様々な変化が起こっている。経済環境の変動にともなって、労働市場、職業構造、キャリア、仕事内容、労働者意識などが変わる。またこれに応じる形で、企業内の人的資源管理、政府の労働政策も変化しつつあるが、経済活動がグローバル化しているため、広い視野が必要とされている。本演習では、「現代における労働の国際比較」に的を絞って、それを掘り下げて検討していきたい。  
企業訪問やディベートなども随時取り入れ、ゼミ生同士で切磋琢磨し、現実感覚や論理的思考能力の涵養も行いたい。

**授業の到達目標**  
Objectives 日本企業が国際展開を加速する中で、人材や労働がどのようになっていくのかについて、個々人の見方や考え方をロジカル、かつデータに基づき述べられるようになることが、当面のゼミ活動の到達目標である。

**授業計画**  
Course Schedule 第1回 - 第15回：テキストをグループで発表し、コメンテーターからコメントを受け、質疑に答える。  
第16回 - 第18回：他大学とのディベートを行う。  
第19回 - 第30回：テキストの報告、コメント、質疑を行うとともに、4年生の卒論の報告、質疑を行う。

**教科書**  
Textbook(s) その都度、提示する。

**参考文献**  
Reference Book(s) その都度、提示する。

評価方法 Evaluation	割合(%) Percent(%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	30 %	
平常点評価 Class Participation	70 %	
その他 Other	%	

**備考**  
Note 取得が望ましい科目：社会政策（白木担当）、労働経済学、統計学

**関連URL**  
URLs for References

# 経済学科

2012

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
218	経済学演習 (田中久稔)	通年	3年以上：4単位	田中 久稔 政政・経演・国演

副題  
Subtitle

理論経済学を学ぶための数学的・統計学的な手法の習得

授業概要  
Course Description

この演習では理論経済学を学ぶために必要となる、数学的・統計学的な手法を身につけることを目標としています。演習では、大学院レベルの書籍を一冊選び、ゼミでの議論を通じて完璧な理解を目指します。2011年度は、ラング「線形代数学(上)」(ちくま学芸文庫)を読んで数学的基礎を身に付けたうえで、ダレル・ダフィー「資産価格の理論」(創文社)を用いて、とくにファイナンス理論において線形代数がどのように活用されているのかを学びました。2012年度には、微分方程式と最適制御理論の基礎を学んだうえで、マクロ経済学への応用についてテキストを選んで学習します。

レポート作成に必要となるpLaTeXや、シミュレーション計算に用いる統計処理言語Rなどのプログラミング言語の習得も授業に並行して行います。

授業の到達目標  
Objectives

1. 興味のある社会科学的現象の数理解モデル化ができるようになる。
2. 数理解モデルの数値分析をするためのプログラムが組めるようになる。

授業計画  
Course Schedule

- 第1回：発表者の順番割り振り。pLaTeXの簡単な解説。  
 第2 - 6回：微分方程式の基礎  
 第7 - 14回：最適制御理論の基礎  
 第15回：前期のまとめと夏休みの課題の説明  
 第16回：発表者の順番割り振り。Rのインストールと簡単な解説。  
 第17 - 25回：マクロ経済学理論への応用  
 第26 - 29回：数値計算入門  
 第30回：理解度の確認

教科書  
Textbook(s)

小山昭雄「ダイナミック・システム(下) (経済数学教室 8)」岩波書店

参考文献  
Reference Book(s)

とくになし。

評価方法  
Evaluation

	割合(%) Percent(%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	50 %	夏休みの課題レポートを基準とする
平常点評価 Class Participation	50 %	ゼミ内での報告を重視する
その他 Other	%	

備考  
Note

担当教員による経済数学Aを受講済みであれば前提となる知識は十分です。また経済理論や数学が苦手な学生であっても、チャレンジする意欲があるならおおいに歓迎します。

関連URL  
URLs for References

<http://hstnk.txt-nifty.com/blog/>

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
219	経済学演習 (永田良)	通年	3年以上：4単位	永田 良 政政・経演・国演

副 題 Subtitle	ミクロ経済学の行方を考える
-----------------	---------------

授業概要 Course Description	<p>ミクロ経済学は、近年、その内容に大きな変化が現われて来ている。それは従来のオーソドックスな部分均衡・一般均衡から成る理論体系に加えて、不確実性や情報の非対称性下での意志決定論とゲーム理論とから成る新たな分野が急速に発展・拡大し大きな一角を占めるに至っていることである。前者は経済社会における市場の働きに焦点がおかれるが、後者では、種々の現実的な条件の下での個人（あるいは個人対個人、組織対個人）の合理的経済行動に重点がおかれる。（比喩的に言えば、前者はミクロ・マクロ的理論、後者はミクロ・ミクロ的理論と言えるかもしれない。）現在では、これら2つの体系が2重構造を成してミクロ経済学を形作っているとさえ言える。このように短期間のうちに急激に変化しているミクロ経済学に対し、本演習では、旧来の体系と新たな体系を比較したり、新たな分野の内容に分け入ったりしてそのダイナミズムの源泉や行く末などを考えて見たいと思う。尚、受講者の関心によって重点の置き方を変える場合もある。</p>
----------------------------	---

授業の到達目標 Objectives	<p>ミクロの経済学の伝統的理論と新潮流の理論の両方に関し、その基礎を十分理解すると共に、両者の関係について各自がしっかりした見解を述べられるようになることを目標とする。</p>
-----------------------	---

授業計画 Course Schedule	<p>第1回：ミクロ経済学の歴史                  第2回：ミクロ経済学の現状                  第3回：伝統的ミクロ経済学の展望：特徴と問題点 - 15回まで                  第4回 - 第6回：家計行動                  第7回 - 第9回：企業行動                  第10回 - 第13回：市場の理論（完全競争と不完全競争）                  第14回 - 第15回：一般均衡理論                  第16回：伝統的理論から新潮流へ                  第17回：ゲーム理論の有効性                  第18回：ワンショットゲーム                  第19回：逐次ゲーム                  第20回：くり返しゲーム                  第21回：不完備情報ゲーム                  第22回：ゲーム理論の応用                  第23回 - 第27回：独占と寡占の理論                  第28回：不確実性と情報の非対称性の重要性                  第29回：保険市場                  第30回：労働市場</p>
-------------------------	--

教科書 Textbook(s)	奥野正寛（編著） ミクロ経済学 東京大学出版会 2008年
--------------------	-------------------------------

参考文献 Reference Book(s)	
---------------------------	--

評価方法 Evaluation		割合(%) Percent(%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)		%	
レポート Report(s)		50 %	
平常点評価 Class Participation		50 %	
その他 Other		%	

備 考 Note	<p>ミクロ経済理論の研究という性格上、数学的知識は必要不可欠である。 受講者には、ミクロ経済学の履修に加えて、解析学・線形代数の十分な理解が要求される。</p>
-------------	---

関連URL URLs for References
------------------------------

# 経済学科

2012

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
220	経済学演習 (中村慎一郎)	通年	3年以上：4単位	中村 慎一郎 政政・経演・国演

副題  
Subtitle

産業エコロジー Industrial Ecology

授業概要  
Course Description

企業経営、政府の政策立案、消費者行動において環境への配慮が無視できなくなっている。産業エコロジー (Industrial Ecology) は環境と経済活動との関わりを定量的・実務的に捉える分野であり、ISO化され多くの企業で採用されている製品環境影響評価手法であるLCA (ライフサイクルアセスメント)、資源循環を包括的・視覚的に捉える手法として広く使われているMFA (マテリアルフロー分析)、および製品のライフサイクル全体を通じた経済性評価手法であるLCC (ライフサイクル費用計算) を主な手法として含む。本演習の目的は、実社会において広く使われており、環境問題の深化と共に今後ますますその重要性を増すであろうこれらの手法を正しく理解し、実際に応用できるようになることである。

ここにおける重要なキーワードは生産・使用・廃棄から成る製品ライフサイクルである。環境問題はシステム全体に関わることであるので、相互依存関係を対象とする経済学の観点には役に立つものが少なくない。しかし、従来の経済学では使用・廃棄段階の問題を明示的に扱うことが極めて少なかった。たとえば、廃棄物は生産・消費に伴い必ず発生するが、標準的ミクロ経済学では廃棄物の記述が無い。

本演習は、諸君の経済学知識を最大限生かしつつ、産業生態学的な視点の涵養に勤める。産業生態学が対象とする現実の環境問題においては技術的・制度的側面が重要であるので、分析道具として用いる産業連関分析・回帰分析の他にこれも学習する。

参考書・その他の準備については、研究室ホームページ

<http://www.f.waseda.jp/nakashin/index-j.html>

で通知する。

キーワード：製品ライフサイクル、LCA、LCC、MFA、環境効率、持続可能な生産と消費

授業の  
到達目標  
Objectives

LCAの結果を解釈できる、計算過程を理解できる、様になる事。

授業計画  
Course Schedule

- 第1回：IE入門
- 第2回：製品ライフサイクル1
- 第3回：製品ライフサイクル2
- 第4回：製品ライフサイクル3
- 第5回：製品ライフサイクル4
- 第6回：廃棄物と廃棄物処理1
- 第7回：廃棄物と廃棄物処理2
- 第8回：廃棄物と廃棄物処理3
- 第9回：廃棄物と廃棄物処理4
- 第10回：LCA1
- 第11回：LCA2
- 第12回：LCA3
- 第13回：LCA4
- 第14回：LCA5
- 第15回：LCC1
- 第16回：LCC2
- 第17回：LCC3
- 第18回：LCC4
- 第19回：LCC5
- 第20回：MFA1
- 第21回：MFA2
- 第22回：MFA3
- 第23回：MFA4
- 第24回：MFA5
- 第25回：応用事例研究1
- 第26回：応用事例研究2
- 第27回：応用事例研究3
- 第28回：応用事例研究4

第29回：応用事例研究 5

第30回：IE総括

教科書  
Textbook(s)

田中 勝「廃棄物学概論」丸善  
監修 稲葉 敦「LCAの実務」社団法人 産業環境管理協会  
中村慎一郎「エクセルで学ぶ産業連関分析」エコノミスト社

参考文献  
Reference Book(s)

田中 勝「廃棄物学概論」丸善  
松藤敏彦「リサイクルと環境」三共出版

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	%	
平常点評価 Class Participation	100 %	ゼミ人の参加度による。
その他 Other	%	

備考  
Note

環境分野は日進月歩の世界である。演習においては教科書の情報が陳腐化している可能性が少なくないので、webなどから最新情報を入手することが必要である。留意されたい。

関連URL  
URLs for References

<http://www.f.waseda.jp/nakashin/index-j.html>

# 経済学科

2012

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
221	経済学演習 (南部宣行)	秋学期 (週2回)	3年以上：4単位	南部 宣行 政政・経演・国演

**副題**  
Subtitle 近代イギリス社会経済史

**授業概要**  
Course Description 18世紀中葉以降におけるイギリスの経済ならびに社会に関する諸問題を検討する。履修者各自のテーマは、産業革命期、およびそれ以降、第1次大戦に至る時期に関するものであることが最も望ましい。しかし、現代とのかかわりにも強く関心をもっており、上述の主要テーマの範囲内であるならば、それ以降の時期、あるいは現代の諸問題、例えば、「イギリス病」、EU加盟、失業等の諸問題であっても構わない。これらのテーマの選択は各自の自由に任されている。各自の報告を重視しているので、すでにテーマが定められており、明確な問題意識をもっている履修生を望んでいる。

**授業の到達目標**  
Objectives 演習論文の作成(各自)。

**授業計画**  
Course Schedule 第1回 - 第2回：論文作成指導 - 基本的構成、様式、体裁、具体例等 -  
第3回 - 第4回：履修生の課題に参考となるような一般的な文献の紹介  
第5回 - 第13回：履修生の課題に関連する文献の講読  
第14回 - 第15回：論文作成進捗報告書に基づく、履修生に対する個別面接  
第16回 - 第17回：履修生の課題に参考となるような文献の紹介  
第18回 - 第24回：履修生各自の個別課題に関連する文献の講読  
第25回 - 第28回：履修生各自による研究経過報告  
第29回 - 第30回：論文作成進捗報告書に基づく、履修生に対する個別面接

**教科書**  
Textbook(s) とくにはない。

**参考文献**  
Reference Book(s) 履修生各自のテーマに沿った関連文献を紹介。

評価方法 Evaluation	割合(%) Percent(%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	80 %	
平常点評価 Class Participation	20 %	
その他 Other	%	

**備考**  
Note 関連科目：「西洋経済史」、「経済史入門」等の講義をすでにあるいは併行して履修していることが望ましい。  
その他：サブ・ゼミや合宿等、正規授業時間以外の活動にも、可能な限り応ずる用意があるので、積極的な履修者を求めている。

**関連URL**  
URLs for References

# 経済学科

2012

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
2 2 2	経済学演習 (野口和也)	通年	3年以上：4単位	野口 和也 政政・経演・国演

副 題  
Subtitle

経済分析と統計的方法

授業概要  
Course Description

経済分析と統計的方法 講義内容：現代社会は情報化の時代であるといわれている。このような時代においては、統計データとして与えられた情報をどのようにして解釈・分析し、その結果をもとにして新たな情報を提供するためには、どのような方法によれば良いかを考える必要がある。

授業の  
到達目標  
Objectives

データの収集および分析を自分で実行できるようにする。

授業計画  
Course Schedule

- 第1回：1年間の方針と授業計画について
- 第2回 - 第3回：統計学の基本的知識の復習 1
- 第4回：統計データの視覚的表現 1
- 第5回：統計データの視覚的表現 2
- 第6回：モーメント・標準化など
- 第7回：統計的関係の分析 1
- 第8回：統計的関係の分析 2
- 第9回：簡単なモデルによる推計と予測 1
- 第10回：簡単なモデルによる推計と予測 2
- 第11回：ノンパラメトリックな問題
- 第12回：確率分布とシミュレーション 1
- 第13回：確率分布とシミュレーション 2
- 第14回：タームペーパーの作成計画について
- 第15回：各自のタームペーパー計画の発表
- 第16回：多変量解析 1
- 第17回：多変量解析 2
- 第18回：多変量解析 3
- 第19回：多変量解析 4
- 第20回：多変量解析 5
- 第21回：時系列分析 1
- 第22回：時系列分析 2
- 第23回：タームペーパーに関するデータのスクリーニング
- 第24回：タームペーパーに関する報告 1
- 第25回：タームペーパーに関する報告 2
- 第26回：タームペーパーに関する報告 3
- 第27回：タームペーパーに関する報告 4
- 第28回：問題点と修正点に関する討論
- 第29回：計算手法の検討
- 第30回：最終報告と修正点の検討

教科書  
Textbook(s)

未定。

参考文献  
Reference Book(s)

演習中に指示。

評価方法 Evaluation	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	50 %	データ分析の習得度とまとめ方を評価する。
平常点評価 Class Participation	50 %	出席・報告などによる。
その他 Other	%	

備 考 Note	<p>応募条件として、「統計学」をすでに履修済みか、3年春学期に履修予定であること。 コンピュータにかんしてはまったくの初心者であっても良いが、少なくとも興味を持っていること。</p>
-------------	--

関連URL URLs for References
------------------------------

# 経済学科

2012

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
223	経済学演習 (馬場義久)	通年	3年以上：4単位	馬場 義久 政政・経演・国演

**副題**  
Subtitle  
わが国の財政システムに関する研究

**授業概要**  
Course Description  
ゼミナールの共通テーマとしては、現行日本の財政システムに関する研究を行う。たとえば、税制の問題点と改革の方向、財政赤字分析、年金・医療・福祉など社会保障のあり方、地方分権制度の構築などが課題として挙げられる。6月末まで財政学のテキストを皆で輪読し、その後、3ないし4のグループに分かれ研究を進めグループ論文を作成する。ゼミナールであるので、独習だけでなく自由闊達な討論を通じてお互いに良い刺激を与えながら、これらの研究をすすめたい。ゼミ活動を通じて、自分なりに財政問題を考えるセンスを身に付けてもらいたいと思っている。

**授業の到達目標**  
Objectives  
解明すべき財政問題を発見し、それに関する重要文献を理解し、自らの主張をまとめる能力を養成する。

**授業計画**  
Course Schedule  
第1回：イントロダクション ゼミ活動の年間予定確認  
第2回 - 第7回：教科書第10章「社会保障を考える」を輪読予定  
第8回 - 第13回：教科書第7章「地方税を徴収される」を輪読予定  
第14回：グループ研究第1班および第2班の研究報告  
第15回：グループ研究第3班および第4班の研究報告  
第16回：グループ論文の書き方の指導および日程の打ち合わせ  
第17回 - 第29回：グループ研究の報告（各回1グループずつ）  
第30回：グループ論文の執筆上の再確認

**教科書**  
Textbook(s)  
横山・馬場・堀場『現代財政学』有斐閣 2009。

**参考文献**  
Reference Book(s)  
ゼミナールの開始時に参考文献リストを配布するほか、授業中に適宜紹介する。

評価方法 Evaluation	割合(%) Percent(%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	50 %	グループ論文の説得力・独自性をもとに評価。
平常点評価 Class Participation	50 %	出席、討論への参加、報告内容をもとに評価。
その他 Other	%	

**備考**  
Note  
( ) ゼミ活動に前向きな諸君を特に歓迎したい。  
( ) 財政学を現在履修中か、3年次春学期に履修することを求める。

**関連URL**  
URLs for References  
なし。

# 経済学科

2012

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
224	経済学演習 (藤森頼明)	通年	3年以上：4単位	藤森 頼明 政政・経演・国演

**副題**  
Subtitle  
資本理論の総合的研究 - 経済構造の現在と未来

**授業概要**  
Course Description  
生産と分配を巡る問題の研究を課題とする。  
最近の世界恐慌の事態は、市場行動を基礎とする経済理論の失敗をも意味している。これに対し、経済を構造の側面から分析する理論として、Marx的な経済理論がある。本演習では、Marxの発想を基礎として、現代経済をより深く理解すると共に、経済の未来像を議論することを大きな目標とする。  
Marxの理論は、価格理論、成長理論、経済循環論、恐慌論、その他、広範囲に及ぶものであるけれども、それを経済構造に基礎をおく理論と捉えれば、想像以上に統計データ等との親和性も高く、現代の経済をより深く理解するのに有効である。  
演習では、区切りの良い箇所を、随時小論文等の作成指導を行う。

**授業の到達目標**  
Objectives  
「標準的経済学では経済現象を説明できない事」ヲ認識スル。  
「Marx経済学の大枠」ヲ理解スル。

**授業計画**  
Course Schedule  
第1回：導入  
第2回 - 第10回：経済理論の議論に必要な基礎数学の演習。  
第11回 - 第29回：経済理論の基本図書を選択して輪読。基礎数学等の復習を随時含む。  
第30回：要約

**教科書**  
Textbook(s)  
最近、数年間で取上げたものは、J・ソロス『グローバル資本主義の危機』、幸島祥夫『バランスシートによる日本経済分析』、浜田浩児『93SNAの基礎』、等がある。2005年度はD・K・フォーリー『成長と分配』を使用している。2006年度は日本経済の産業関連表を用いた分析をテーマとした。その他、微分方程式の応用、線形代数の応用に関連する入門水準の参考書を使用した。

**参考文献**  
Reference Book(s)  
開講時に指示する。下記関連URLをも参照の事。

評価方法 Evaluation	割合(%) Percent(%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	50 %	
平常点評価 Class Participation	50 %	
その他 Other	%	

**備考**  
Note  
ゼミナールの概要については、関連URLの該当箇所をも参照の事。

**関連URL**  
URLs for References  
<http://www.fujimori.cache.waseda.ac.jp>

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
225	経済学演習 (船木由喜彦)	通年	3年以上：4単位	船木 由喜彦 政政・経演・国演

副題  
Subtitle

ゲーム理論と実験経済学

授業概要  
Course Description

この演習では「ゲーム理論」の基礎を修得すること、また、「経済学実験」を実施・分析する基礎能力を修得すること目標とします。さらに、それに関連する経済学・政治学諸分野の問題を研究します。例えば環境問題、情報の経済学、産業組織論、公共財供給問題などがそれらの研究テーマの一例となります。

ゲーム理論では、互いに依存関係のある状況における、個人の合理的な意思決定や行動を研究します。実験経済学では、ゲーム理論や経済学の理論のとおりになんが行動するのか、もし、そうでないとすると、それはなぜかという問題を研究します。

ゼミでは2年間かけて、自分の定めた研究テーマの卒業論文を作成し、それを卒業発表会で報告します。3年次では、このための基礎研究をします。まずは、担当教員の推薦するゲーム理論あるいは実験経済学の平易なテキストまたは資料を輪読することから始める予定です。その際、実際にゼミの皆さんに参加していただき、人々の行動選択の実験を実施し、実験経済学をより理解していただく予定です。卒業論文のテーマとしては上記のほか、実際に実験を実施した研究、国際政治経済的な研究、スポーツのゲーム理論分析、制度の比較研究、混雑の解消の問題など内容は多岐にわたりますが、そのほとんどがゲーム理論に関連した研究です。その中には論文コンクールにおいて優秀賞を受賞したものもあります。なお、卒業論文の内容は卒論発表会にて報告しますが、0Bや2年生の参加もあります。例年、1 - 2割の学生が大学院に進学します。

なお、3年修了時にはその年に学んだことを求めたレポートを作成していただきます。

授業の到達目標  
Objectives

ゲーム理論の基礎知識の確実な修得、経済学実験実施・分析能力の修得、さらにそれらを踏まえた応用力の養成。

授業計画  
Course Schedule

第1回：自己紹介、テキスト選定  
第2回 - 第20回：テキスト輪読、経済学実験実習  
第21回 - 第24回：卒論テーマ設定（議論と面接）  
第25回 - 第26回：卒論研究に向けての報告と議論、3年次レポートの作成  
第27回 - 第28回：4年生の卒論に対する討論、3年次レポートの作成  
第29回：卒論発表会（4年生）と討論会  
第30回：今後研究計画の報告、3年次レポートの提出

教科書  
Textbook(s)

担当教員の配付する資料またはテキストを用いる。

参考文献  
Reference Book(s)

船木由喜彦『ゲーム理論講義』（新世社・近刊）  
中山、武藤、船木編著『ゲーム理論で解く』（有斐閣）  
武藤滋夫『ゲーム理論入門』（日経文庫）  
佐々木宏夫『入門ゲーム理論』（日本評論社）  
梶井厚志『戦略的思考の技術』（中公新書）  
船木由喜彦『演習ゲーム理論』（新世社）  
岡田 章『ゲーム理論・入門』（有斐閣アルマ）  
河野、西條編『社会科学の実験アプローチ』（勁草書房）  
川越敏司『行動ゲーム理論入門』（NTT出版）  
フリードマン・サンダー『実験経済学の原理と方法』（川越ほか訳・同文社）

評価方法 Evaluation	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	20 %	3年次終了レポート
平常点評価 Class Participation	80 %	報告、レジュメ、議論、出席。
その他 Other	%	

備考  
Note

学生に対する要望：「受講希望学生に対する掲示」を良く読んでください。

関連URL  
URLs for References

<http://www.f.waseda.jp/funaki/wasyoko.html>

# 経済学科

2012

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
226	経済学演習 (堀内俊洋)	通年	3年以上：4単位	堀内 俊洋 政政・経演・国演

**副題**  
Subtitle 企業、産業、経済、そしてドラッカー研究

**授業概要**  
Course Description この演習では、生産、供給活動を担っている企業、そしてその集計といえる産業という切り口から経済現象を勉強する事を目的とする。企業活動といえば、主に経営学で考察されるものであるが、経済学の観点からも取り上げるわけである。関心はミクロ的で、応用ミクロ経済学の一つである産業組織論を経済学のベースとする。具体的には、そのような問題意識から、各人が、経営学者ドラッカーの古典的な名著の勉強に取り組む。多くの翻訳書が出版されているはずであるので、原著と照らし合わせながら勉強に取り組み、自分の力で思考する訓練をしてもらいたい。この3年時における各人の成果を4年の卒論に反映、産業組織論とドラッカー研究の総合化を演習で目指して欲しい。

**授業の到達目標**  
Objectives ドラッカーを理解した上で、自分なりの考えを持つことが出来ることがこの演習の目標。

**授業計画**  
Course Schedule 第1回 - 第5回：ドラッカー研究のねらい、対象、アプローチなどを解説。1年間の研究の方向性を討議  
第6回 - 第10回：ドラッカーの各著書の研究発表、その1  
第11回 - 第15回：ドラッカーの各著書の研究発表、その2  
第16回 - 第20回：ドラッカーの各著書及び各自の独自の研究発表、その3  
第21回 - 第25回：ドラッカーの各著書及び各自の独自の研究発表、その4  
第26回 - 第30回：ドラッカーの各著書及び各自の独自の研究発表、その5、および1年間の取りまとめ

**教科書**  
Textbook(s) とくになし。各自が選んだドラッカーの著作をいわば各自の教科書とする。

**参考文献**  
Reference Book(s) ドラッカーの関連書物。

評価方法 Evaluation	割合(%) Percent(%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	30 %	ゼミ調査目的に沿っていることが合格レベル。
平常点評価 Class Participation	50 %	同上。
その他 Other	20 %	ゼミの勉強に全体的にかかわる協調性を評価。

**備考**  
Note

**関連URL**  
URLs for References

# 経済学科

2012

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
227	経済学演習 (松本保美)	通年	3年以上：4単位	松本 保美 政政・経演・国演

副題  
Subtitle

経済分析のための基礎理論・手法の研究

授業概要  
Course Description

(1) 計量分析のための理論と分析手法、(2) 集団的選択理論をそれぞれ1年間ずつ交互に研究する。  
 (1) では、GujaratiのBasic Econometrics (4th ed.) に従い、計量経済モデルの構築に必要な基礎的統計理論・分析手法・検定手法を学ぶ。  
 (2) では、まず、Arrowの一般可能性定理とその関連定理を学ぶ。特に、理論的枠組みと賦課される諸条件、および、結果の現実的な意味を解き明かすことに重点を置く。解釈に当たっては、進化生物学の成果をできるだけ取り入れる努力を行う。

授業の到達目標  
Objectives

\* 自分で計量分析が出来るようになる。  
 \* Arrowの一般可能性定理のvariationをつくり、証明出来るようになる。

授業計画  
Course Schedule

(1) 西暦偶数年(3、4年合同)  
 第1回 - 第4回: Two Variable Regression Model  
 第5回: Classical Normal Linear Regression Model  
 第6回: Interval Estimation and Hypothesis Testing  
 第7回 - 第10回: Multiple Regression Analysis  
 第11回: Dummy Variables  
 第12回 - 第15回: Multicollinearity, Heteroscedasticity and Autocorrelation  
 第16回 - 第20回: Model Making (Student's Exercise 1)  
 第21回 - 第25回: Exercise Review and Additional Lesson on Data Handling  
 第26回 - 第30回: Final Model Making (Student's Exercise 2)  
 (2) 西暦奇数年(3、4年合同)  
 第1回 - 第2回: Introduction  
 第3回 - 第4回: Simple Majority Decision  
 第5回 - 第6回: Choice Functions  
 第7回 - 第11回: Arrow's General Possibility Theorem  
 第12回 - 第20回: Functional Collective Choice  
 第21回 - 第25回: Students' Exercise  
 第26回 - 第28回: Irrational Individual Preference Relations  
 第29回 - 第30回: Dynamic Collective Choice

教科書  
Textbook(s)

(1) Gujarati, D., Basic Econometrics, 4th ed., McGraw-Hill, 2003  
 (2) Sen, A.K., Collective Choice and Social Welfare, North-Holland, 1970  
 Sober, E. ed., Conceptual Issues in Evolutionary Biology, 3rd. ed. MIT Press, 2006

参考文献  
Reference Book(s)

上記(1)、(2)および進化生物学に関する文献は演習中に適宜紹介する。

評価方法 Evaluation	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	80 %	学術論文の形式・評価に準拠。
平常点評価 Class Participation	20 %	プレゼンテーションの内容と質問に対する答え方。
その他 Other	%	

備 考 Note	学生に対する要望：応募時点での成績は問わない。積極的に、かつ、粘り強く学ぶ意志のある学生であれば良い。 注意：本演習は3年、4年合同である。したがって、2時限連続になるので、他の科目の履習に注意するように。

関連URL URLs for References

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
228	経済学演習 (村上由紀子)	通年	3年以上：4単位	村上 由紀子 政政・経演・国演

**副題**  
Subtitle 労働と勤労者の生活に関する研究

**授業概要**  
Course Description 多くの人は、学校教育を終えたあと、労働力を供給して所得をもらい生活をしている。社会人となったあとも、さらに自分に教育投資をする人もいる。また、社会保障の諸制度は勤労者生活をサポートしている。本演習では、労働を中心として、教育、消費、医療、社会保障などの勤労者の生活に直接関連する課題を取り上げ、それらに関する実態の解明、問題の把握、問題解決のための政策などについて、理論的・実証的に研究する。  
本演習は主に二つの部分から構成されている。第一の柱はグループ研究である。今年のグループ研究の共通テーマは「所得格差」であり、3 - 5人から成るグループごとにサブテーマを定めて研究を行う。研究の成果は口頭のプレゼンテーションと論文により発表する。第二の柱は4年次の卒業論文のテーマを決定することである。そのために、労働、教育、消費、医療、社会保障などに関する文献の輪読、ディスカッション、ディベートなどを行う。

**授業の到達目標**  
Objectives グループ研究を行うことを通じて、研究のやり方や発表（口頭、論文）の仕方を修得する。  
また、様々な研究課題に触れながら、4年次に個人で取り組む卒業論文の研究課題を見つけ、計画をたてる。

**授業計画**  
Course Schedule 第1回：イントロダクション  
第2回 - 第14回：所得格差に関する研究  
第15回：グループ研究計画の発表  
第16回：教育  
第17回：医療  
第18回：賃金  
第19回：消費  
第20回：失業  
第21回：社会保障  
第22回：ワークライフバランス  
第23回：労働移動  
第24回：若年者の雇用  
第25回：女性労働  
第26回：技術革新と雇用  
第27回 - 第28回：グループ研究発表  
第29回 - 第30回：卒業論文計画発表

**教科書**  
Textbook(s) 授業中に指示する。

**参考文献**  
Reference Book(s) 授業中に指示する。

評価方法 Evaluation	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	20 %	
平常点評価 Class Participation	30 %	
その他 Other	50 %	グループ研究の成果、取組み。

備 考  
Note

ゼミへの参加は2012年度開講の労働経済学を履修することを前提とする。

関連URL  
URLs for References

<http://www.f.waseda.jp/myukieco/>

# 経済学科

2012

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
229	経済学演習 (本野英一)	通年	3年以上：4単位	本野 英一 政政・経演・国演

**副題**  
Subtitle アジア専制国家文明の理論的把握

**授業概要**  
Course Description 古代から現代に到るアジア専制主義国家文明の本質を把握し、現在の中国・インド・イスラム諸国の動向への理解を深めるようにする。

**授業の到達目標**  
Objectives 現在のアジア大陸諸国社会が、西洋諸国の制度を採用しながらも、その本質に変わらないということを理解できるようになること。

**授業計画**  
Course Schedule  
第1回：オリエンテーション(1)  
第2回 - 第12回：テキスト輪読  
第13回：全体討論(1)  
第14回：全体討論(2)  
第15回：夏合宿準備  
第16回 - 第27回：テキスト輪読  
第28回：全体討論(1)  
第29回：全体討論(2)  
第30回：ゼミ論計画発表会

**教科書**  
Textbook(s) カール・A・ウィットフォーゲル(湯浅赴男訳)『オリエンタル・デスポティズム - 専制官僚国家の生成と崩壊 - 』(新評論 1991、新装版1995年)

**参考文献**  
Reference Book(s) 湯浅赴男『「東洋的専制主義」論の今日性：還ってきたウィットフォーゲル』(新評論2007年)  
石井知章『K・A・ウィットフォーゲルの東洋的社会論』(社会評論社 2008年)

評価方法 Evaluation	割合(%) Percent(%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	60 %	
平常点評価 Class Participation	30 %	輪読の準備の出来。
その他 Other	10 %	合宿報告の準備の出来。

**備考**  
Note 原則としてアジア経済史、経済史入門Bのいずれかの単位を取得済みか、もしくは現在受講中の学生の参加を優先する。

**関連URL**  
URLs for References

# 経済学科

2012

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
230	経済学演習 (若田部昌澄)	通年	3年以上：4単位	若田部 昌澄 政政・経演・国演

副題  
Subtitle

経済問題を解くための経済学

授業概要  
Course Description

この演習では、二つのことを目的としている。第一に、「経済問題」をとりあげること、経済学の実践的な部分の知識と興味を開拓することである。道具の良し悪しは実際に使ってみることでよくわかるし、使う側の理解も高まる。しかし、そのためには経済学についても相当の勉強が必要になる。第二に、経済についてのメディアなどに流布している各種の「誤解」を「躓きの石」と名付け、これを意識的に取り上げ、取り除くことを試みる。

実際の講義では、経済問題について各種メディアでいわれている議論を概観し、必要な経済学の知識を確認し、それに基づいて結論を出していくという形をとる。また、良質な英語記事を読むことを習慣としたい。

英語の文献も利用するので、英語に苦手意識がある人はご遠慮ください。

授業の到達目標  
Objectives

(1) 論理的思考力の向上、(2) 標準的な経済学の学習、とくにその現実への応用についての能力開発、(3) 口頭での発表能力の開発、(4) 課題や修了論文を通じて文章を書く能力の向上。

授業計画  
Course Schedule

第1回：イントロダクション：議論の組み立て方について  
第2回：論理トレーニング1  
第3回：論理トレーニング2  
第4回：論理トレーニング3  
第5回：論理トレーニング4（ディベート）  
第6回：経済をみる躓きの石1：経済と経営は違う  
第7回 - 第9回：経済をみる躓きの石2：財政危機  
第10回 - 第12回：経済をみる躓きの石3：社会保障  
第13回 - 第15回：経済をみる躓きの石4：マクロ経済政策  
第16回 - 第18回：経済をみる躓きの石5：為替  
第19回 - 第21回：経済をみる躓きの石6：貿易  
第22回：ゼミ修了論文計画書発表1  
第23回：ゼミ修了論文計画書発表2  
第24回：ゼミ修了論文計画書発表3  
第25回：ゼミ修了論文発表1  
第26回：ゼミ修了論文発表2  
第27回：ゼミ修了論文発表3  
第28回：ゼミ修了論文発表4  
第29回：まとめ  
第30回：ゼミの終りにあたって

教科書  
Textbook(s)

飯田泰之『ダメな議論』ちくま新書、2004年。  
野矢茂樹『<新版>論理トレーニング』産業図書、2007年。  
ポール・クルーグマン『良い経済学 悪い経済学』日経ビジネス人文庫、2000年。  
盛山和夫『経済成長は不可能なのか』中公新書、2011年。  
西沢和彦『税と社会保障の抜本改革』日本経済新聞出版社、2011年。  
岩田規久男『デフレと超円高』講談社現代新書、2011年。  
片岡剛士『日本の「失われた20年」』藤原書店、2010年。  
Reinhart, Carmen, and Kenneth Rogoff, This Time is Different: Eight Centuries of Financial Folly, Princeton: Princeton University Press, 2009. (『国家は破綻する』日経BP社、2011年)

\* 変更する可能性あり。

参考文献  
Reference Book(s)

若田部昌澄 『経済学者たちの闘い』東洋経済新報社、2003年。  
若田部昌澄 『改革の経済学』ダイヤモンド社、2005年。  
若田部昌澄 『危機の経済政策』日本評論社、2009年。  
浜田宏一・若田部昌澄・勝間和代 『伝説の教授に聞け!』東洋経済新報社、2010年。  
若田部昌澄・栗原裕一郎 「よりよく生きるための経済学」Webちくまで連載中。

評価方法  
Evaluation

	割合(%) Percent(%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	50 %	修了論文の量(2万字以上)と質(問題設定の適切さ、論旨の妥当性)。
平常点評価 Class Participation	50 %	出席は単位取得の前提。無断欠席はゼミ脱退とみなす。
その他 Other	%	

備考  
Note

- 学生に対する要望：
- ・ミクロ経済学、マクロ経済学、計量分析、計量経済学を履修済みか履修中であることが望ましい。
  - ・選考にあたっては課題を出すことがあるので掲示板に注意するように。
  - ・講師が何者か、その考え方を知らない人は、参考文献を読むこと。
  - ・演習が始まるまでにミクロ経済学、マクロ経済学の復習をしてもらう。
  - ・演習については無断欠席をしないこと。無断欠席はゼミ脱退とみなす。
  - ・演習を優先すること。
  - ・演習時間を延長することがありうるので、ゼミの後に用事を入れないこと。
  - ・夏合宿に参加できること。
  - ・本代を気にせずに購入すること(必要ならば本の購入代は貸す)。
  - ・英語に対する苦手意識をもたないこと。
  - ・さらに演習について質問がある場合は、メール、オフィスアワーを利用してください。

関連URL  
URLs for References

# 経済学科

2012

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
231	経済学演習（渡会勝義）	通年	3年以上：4単位	渡会 勝義 政政・経演・国演

副題  
Subtitle

経済学における富と貧困、幸福

授業概要  
Course Description

経済学の歴史において富の発展と貧困（とくに失業）の問題は、中心的な位置を占めてきた。しかし最近では富の増加が幸福の増加をもたらすか否かが問題となっている。本演習では富の増加、貧困、幸福の関連について考察する。

授業の到達目標  
Objectives

問題を自分で発見し解決をはかる能力を身に付けること。内容のある英語を正確に理解できるようにすること。

授業計画  
Course Schedule

第1回 - 第29回：上記テーマに関する文献（基本的に英語）を読み、議論をする。  
第30回：まとめ。各自上記テーマで考察したことをまとめる。（レポートの提出）

教科書  
Textbook(s)

参考文献  
Reference Book(s)

随時紹介する。

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	30 %	
平常点評価 Class Participation	70 %	
その他 Other	%	

備考  
Note

関連科目：経済学史（渡会）（本演習のテーマに密接に関連する講義）  
学生に対する要望：現代の問題意識をもって経済学の文献を読む意欲のある諸君の参加を希望します。また内容のある英語を読解する能力を身につけたいと考える人も歓迎します。

関連URL  
URLs for References